

今までの授業

- ・知識・技術については、生徒によって学習の定着度合いに差が生まれている。
- ・思考・判断・表現について、ペアワークなどの話し合い活動の機会がやや制限されてきた。
- ・主体的な学習に取り組む態度については、ICTの活用により、生徒の関心・意欲を高める授業を実践してきた。

今回の調査結果

昨年度の検証法から、定期テストの結果を元に、英語レベルCEFRA1（英検3級合格程度）を基準に英語力を図るために変更した。

3年生は1学期期末テストを比較し、R5年度が53点、R6年度50点と3点減少した。

2年生は1学期期末テストを比較し、R5年度が58.2点、R6年度52点と6.2点減少した。

1年生は1学期期末テストを比較し、R5年度が52.6点、R6年度76.8点と24.2点向上した。

課題

- (1) 時間割が過密なため、複数の教員で実施する少人数授業の教員間の打ち合わせの時間を作り出すことが難しく、勤務時間外になってしまうことが多い。
- (2) 少人数授業を実施していると、同一教科の教員が相互に授業を観察し、意見交換をすることができないため、ビデオ撮影などで補うことはできるが教員間による授業スキルの向上、特に若手教員の育成に課題がある。

授業改善の具体的な方策

第1学年

【授業を改善すること】

文法の定着を図るために、毎回授業の中で扱う活動や細かい文法指導が必要である。タブレットを使ったデジタル教科書やGoogle Formsを活用した毎回授業の中で扱う活動などを用いて、家庭でも自分のペースで何度でも練習できる環境を整えていく。（知識・技能）

リスニング演習を授業でも積極的に行い、また、自宅でもリスニングの練習ができるようQRコードを活用して聞く力を育成するサポート環境を強化する。（思考・判断・表現）

「英語学習の方法」を分かりやすく、繰り返し提示し、自学出来る学習者の育成に努める。（主体）

第2学年

【授業を改善すること】

問題演習には副教材のワークブックを確認する時間を取り、自宅学習で何回も解き直しをするよう指導する。（知識・技能）

リスニング演習を授業で積極的に行う。まとまった文を読み内容をとらえる練習を継続する。英問英答の口頭練習も、決まった答えだけではなく、自分の考えを足して答えるように練習する。（思考・判断・表現）

「英語学習の方法」を分かりやすく、繰り返し提示し、自学出来る学習者の育成に努める。タブレットに自宅学習課題を提示し、その成果を指導する教員が評価する。（主体）

第3学年

【授業を改善すること】

基礎を定着させるための問題演習を増やす。デジタルコンテンツを活用する。（知識・技能）
 まとまった文を読み内容をとらえる練習を継続する。英問英答の口頭練習も、決まった答えだけではなく、自分の考えを足して答えるように練習していく。（思考・判断・表現）

家庭学習を充実させるよう働きかけ、教材を示す。デジタルコンテンツや、教科書やワークなどについているQRコードを予習と復習に活用する。（主体）